

船舶事故調査報告書

平成31年4月17日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	衝突
発生日時	平成30年10月22日 20時30分ごろ
発生場所	愛媛県松山市興居島南方沖 松山港外港2号防波堤北灯台から真方位272° 1.5海里付近 (概位 北緯33° 52.1′ 東経132° 40.1′)
事故の概要	プレジャーボートこぐまⅢは、漂流中、また、漁船福丸は、南東進中、両船が衝突した。
事故調査の経過	平成30年11月2日、主管調査官（広島事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	A プレジャーボート こぐまⅢ、1.9トン 281-41586 愛媛、個人所有 B 漁船 福丸、1.5トン EH3-24380（漁船登録番号）、個人所有
乗組員等に関する情報	A 船長A、一級小型・特殊・特定 B 船長B、二級小型・特殊・特定
負傷者	なし
損傷	A 左舷中央部外板及び操舵室囲壁に破損 B 船首部外板に破口
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 南東、風速 約0.7m/s、視界 良好 海象：海上 平穏、潮汐 高潮時
事故の経過	A 船は、船長Aが1人で乗り組み、友人1人を乗せ、法定灯火を表示し、船首を北方に向けて主機を中立運転とし、釣りをしていたところ、船長Aが、左舷方から接近するB船を至近距離に認めたものの、どうすることもできず、B船と衝突した。 B 船は、船長Bが1人で乗り組み、法定灯火を表示し、約14ノットの対地速力で手動操舵により南東進中、船長Bが、転針予定場所の手前で転針方向である左舷船首方の小型船の灯火を見ながら航行していたところ、A船と衝突した。
分析	A 船は、漂流中、船長Aが、釣りをしていて周囲の見張りを適切に行わずに漂流を続けたことから、接近するB船に気付くのが遅れ、B船と衝突したものと考えられる。 B 船は、南東進中、船長Bが転針方向の小型船の灯火を見ていて船首方の見張りを適切に行わずに航行を続けたことから、前路で漂流中のA船に気付かず、A船と衝突したものと考えられる。
原因	本事故は、夜間、興居島南方沖において、A船が漂流中、B船が南東進中、船長Aが釣りをしていて周囲の見張りを適切に行わずに漂流

	<p>を続け、また、船長Bが転針方向の小型船の灯火を見ていて船首方の見張りを適切に行わずに航行を続けたため、両船が衝突したものと考えられる。</p>
<p>再発防止策</p>	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・航行中は、進行方向に対して適切な見張りを行うこと。 ・漂泊中も、常時、周囲の適切な見張りを行うこと。